

道路管理に学ぶ事務所庁舎の雑草対策について

北田 めぐみ

元 大宮国道事務所 総務課（埼玉県さいたま市北区吉野町 1-435）

現 建政部 住宅整備課（埼玉県さいたま市中央区新都心 2-1）

1. 事務所の現状

大宮国道事務所の敷地は4方を住宅に囲まれた、6,328.87平方メートル（およそテニスコート24面分）の広大な土地である。敷地内には多数の樹木が植えられ、雑草を含む植物が繁茂しているため、業務発注による適正な整備を実施したいと計画していたが、経年により成長した樹木の剪定・広範囲に繁殖する植物の除草は、厳しい予算の制約のもとでは、全てを業務に盛り込むことが難しい状況であった。



敷地内に繁茂する雑草

伸びきった植物を放置すれば近隣の住民から厳しいご意見をいただくことになりかねないため、事務所職員で実施可能な対策を検討した。最も簡単なのは除草剤を使用することであるが、敷地周りの道路が小学生の通学路になっていること及び周辺住民への配慮から、除草剤を使用しない方法での除草を実施することとした。

2. 課題と解決案

庁舎管理者としての立場で除草対策をするにあたり、次の2つの課題があると認識した。1つ目は、すぐに伸びてしまう植物に対応するため、効果的な対策の定期的な実施が必要であること。2つ目は、コロナ禍において職員の出勤制限があるため、在庁する職員が除草に割ける時間が少ないことである。

限られた時間と人員で、いかに効率よく作業を進めるか思案したところ、昨年度当事務所の春日部国道出張所がスキルアップセミナー関東で発表した「道路の雑草対策」が、庁舎の雑草対策にも活用できるのではないかと考え、取り組みを実施することとした。

3. 温水を使用した除草の実施と効果

敷地内の目立つところに繁殖しているドクダミを除草対象に選定した。昨年度の発表により、42℃以上の温水を散布することで除草（枯らすこと）が可能なことが判明していたため、執務室内のポットの残り湯を使用してドクダミ繁殖地に散布し、後日観察を行った。なお、使用するお湯の量をやかん1杯分と2杯分、それぞれの場合のパターンで検証を行った。

その結果、どちらの場合も温水をかけた翌日以降に葉が茶色くなり、成長の抑制効果がみられた。



お湯をかける前



お湯をかけたあと

4. まとめ

今回の方法は、どの検証でも温水をかけた翌日以降に葉が茶色くなり、一時的ではあるが成長の抑制効果が見られた。短期間で効果が現れることから、庁舎の雑草対策にも大変有効な方法であることがわかった。また、温水（ポットの残り湯）を定期的に散布することは、時間的・体力的に職員の負担が少なく、さらに誰にでもできる簡単な作業であるため、継続が可能であること、さらに、捨ててしまうものを有効活用することにより、新たな予算を必要としない方法で除草が可能となることがわかった。

さらに今回の検証を行うことにより、コロナ禍であまり顔を合わせることができなかった総務課職員同士が同じ作業を行うことにより、一体感が生まれコミュニケーションがとりやすくなるなど、思わぬ良い効果も得ることができた。加えて、出張所職員より技術的アドバイスをもらうことにより、事務所と出張所で、より交流を深めることができ風通しがよくなったことが実感できた。

5. 今後

来年度以降は、さらに効率的・効果的な除草方法を検討するため、温水を散布する時期をずらして成長抑制効果の検証を行うことを考えている。また過年度の春日部国道出張所の発表にあった「つるガード工法」や「固まる土の利用」など、別の方法での雑草対策にも取り組んでいきたい。



つるガード工法の実施例

雑草対策に終わりはないので、限られた時間・人員・予算の中で良いアイデアを取り入れながら継続的にかつ周りの職員にも協力してもらいながら取り組む必要があると考える。

引き続き、職場環境を整備することだけではなく、同じ目的で複数の所属職員で対応することにより職員間の風通しを良くし、積極的にコミュニケーションをとれるよう、つとめていきたい。